

HOTeye

心と心のかよいあう福祉の情報誌

ホットアイ

2026 Vol.122

P1 特集 社会福祉事業所紹介

介護現場における生産性向上に取り組む
社会福祉法人やす「特別養護老人ホームすこやか」

P5 チャレンジ福祉の仕事
社会福祉法人やす

P6 福祉の専門職をめざして
地域が一体となって支えていくまちづくりを
「介護福祉士」

P7 福祉人材センター情報
就職支援コーディネーターが
あなたの就職をお手伝いします！

P8 ボランティア・市民活動センター情報
とっとりボランティアバンク登録団体紹介
よなご若者サポートステーション

P9 ボランティア・市民活動センター情報
鳥取学生赤十字奉仕団
(鳥取大学ボランティアサークル)

P11 ことぶき高齢者情報
第2回因伯ねりんピック

P12 ことぶき高齢者情報
いきいきシニア

P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

地域との絆を深めながら福祉のまちづくりを



八頭高校吹奏楽部の15名が特養すこやかに来苑し、地域交流室で「クリスマスコンサート」を開催。若さはじける生徒たちの真心のこもった演奏に、参加者はたくさんの感動と元気をいただきました

社会福祉法人やず 特別養護老人ホームすこやか

「特別養護老人ホームすこやか」は、学校や公共施設などが集中する八頭町中心地の国道29号から少し入ったところにあります。

近くには同法人の「介護老人保健施設すこやか」や「ケアハウスすこやか」などがあり地域医療と福祉サービスの拠点となっています。

20年以上運営されてきた特養すこやかですが、令和6年度、介護現場における生産性向上の取り組みの普及・啓発を目的とした厚生労働省の「介護現場における生産性向上(業務改善)」のモデル事業の指定を受けたのを契機に、職員の負担軽減・働きやすさの実現に取り組み、介護サービスの質の向上に取り組んでいます。



年末に利用者家族や近隣住民に手伝いに来ていただき、皆で協力して「餅つき」を行いました。餅つきは、昔ながらの杵と臼で利用者や職員がつき、盛り上がりました



特養すこやかのある八頭町宮谷地内のすこやか広場の横を流れる水路および管理道の環境整備と一斉清掃を、関係する3集落の皆様と当法人職員も参加して共同作業で行いました

介護現場における生産性向上に取り組む

特別養護老人ホームすこやかは、

入居定員80名のユニット型個室の介護老人福祉施設です。「特養すこやかは八頭町にあります。そのため、地域との繋がりをなによりも大切にして、地域から信頼され愛されることを究極の目標にしています」と

田中裕之施設長は熱心に語ります。介護職員は、経験豊富なスタッフがが多く在籍しており、看護職員も常駐で日常的な健康管理や医療的サポートを行い、地域の医療機関と連携して必要な医療サービスを迅速に受けられる体制を整えています。

そして「毎月、介護士・看護師など専門職が集まる〈ユニット会議〉を各ユニットで開催します。会議では、各種専門委員会での協議・決定事項や利用者一人ひとりの状態の確認から、家族からの要望なども情報共有し、支援方針を協議・検討して実行しています」と田中施設長は話します。

食事は、利用者一人ひとりの状態に応じて提供することを前提とし、食事を楽しんでもらうため、正月節分ひな祭りなどの時節に応じた「行事食」を提供し、喜びにも

繋がるように心掛けています。

地域との交流では、木造の小ホール「地域交流室」で、夏は「緑日レクリエーション」、秋はボランティア団体による「敬老慶祝コンサート」、冬は八頭高校吹奏楽部による「クリスマスコンサート」や「餅つき」を開催し、利用者と家族をはじめ近隣住民にレクや演奏を楽しんでもらうなど、心身の健康を維持し、充実した生活が送られるよう努めています。

また、施設周辺の集落と共同で防災に向けた水路の維持作業を行うほか、地域の人たちを対象とした福祉相談・支援・予防など繋がりを大切にしています。

変わらうとする姿勢への意識改革が必要不可欠

「介護現場における生産性向上」の目的は、介護ロボットなどのテクノロジーを活用し、業務の改善や効率化を進めることにより、職員の業務負担の軽減を図ることで生み出した時間を直接的な介護ケアの業務に充て、利用者と職員が接する時間を増やすなど、介護サービスの質の向上に繋げていくことにあります。



生産性向上推進の中心となった岡崎誠主任(右)と上田美穂副主任(左)

特養すこやかの生産性向上推進の取り組みで、中心となった岡崎誠主任と上田美穂副主任に、取り組みで得られたことをお聞きしました。

岡崎主任は、職員の負担軽減において「ユニット業務などでムリ・ムラ・ムダがないか職員間で話し合うことで改善を図りました。また、介護主任はフリー勤務になるように調整

社会福祉法人やす
特別養護老人ホームすこやか

たなか ひろゆき

田中 裕之
施設長(法人理事)

し、日々の業務の様々な場面の中で判断指示ができるようになりました。業務改善をして、職員がスムーズに仕事ができてきたことを体感し、負担軽減に繋がってきたと思っています」と話します。

時間外勤務の減少については、介護記録がパソコン入力からタブレット入力に変わったことが大きな要因となりました。以前は、パソコン入力時にフリーズなどの不具合があったり、起動が遅かったりと不満が多くあ

りましたが、タブレット入力により、時間内に介護記録を終えられ、時間外超過勤務が前年比約3割減少したばかりでなく、有給休暇取得率も3割近く増加しました。

そして、「職員が課題と感じる事柄に対して、意見を出し合って施設全体で解決に向けていく姿勢が重要だ」と思います。課題を先送りしないで、小さなことでも成功体験として実感し、変わろうとする姿勢を続けていくことが生産性向上の取り組みの中で必要不可欠だと思います」と話します。

働きやすい職場づくりのために細かな配慮を

生産性向上は、「人材育成」「チームケアの質の向上」「情報共有の効率化」を図ることで、職員のモチベーションの向上と、楽しく働きやすい職場づくりに繋げることで、ひいては人材の定着確保にも繋がります。

働きやすい職場（環境）づくりについて上田副主任は「昨年度は、業務の手順書やマニュアルの整備状況を確認しました。無いものは新たに作成し、未更新のまま活用されていないものは更新しました。また、役割が曖昧になっている業務については、関係部署の職員間で話し合い、役割分担を明確にしました」と話します。

また、「職員に働きやすい

職場だと感じてもらうためには、作業の負担軽減と同時にストレスの軽減が

より重要だと考え、令和

6年度より衛生委員会

で『職場環境に関する意

識調査』を実施してい

ますが、この中で、スト

レスの要因（ストレス

サ）を細かく分析し、

把握した課題の改善に向

けて取り組んでいます。昨年度

は『フレイル予防講義』『転倒・腰痛防

止のための研修』『健腸教室』を開催

するほか、職員間のコミュニケーション

トラブル防止の二助になればと『フキハ

ラ（不機嫌なハラスメント）チェックリス

ト』を作成し、振り返りを促していま

す」と進捗状況を話します。

利用者を多角的に見守り、ケアの質の向上を図るため

「ICT化」や「介護ロボット」の



野崎知大次長

らっきょう・抹茶など季節に合わせた材料で作られたリクエストメニューの「行事食」



導入について野崎知大次長は、「令和6年3月に、鳥取県介護テクノロジー定着支援事業補助金を活用して、ナースコールを更新しました。これにより、従来のPHS電話からスマートフォンでの対応へ切り替わり、居室内の呼び出し場所や発生時間、過去の履歴が確認でき、呼び出し先の探索やコール対応の優先順位付けが容易になったことで、業務の効率化に繋がっています」と話します。



利用者に昼食の配膳をしながらかける山本奈美江主任

また、ナースコールには見守りセンサー（センサーマット、赤外線センサー）起き上がりセンサー、サイドコール22台を連動させ、各センサーの通知は受信機の音で把握しつつ、スマートフォン上で詳細を確認できるため、職員の状況判断や迅速な対応が可能となっています。

さらに令和7年には、同補助金を活用して電子カルテを導入し、これまでExcelで入力していた介



田中裕之施設長 からのメッセージ

解剖学者の養老孟さんの著書で、450万部の大ベストセラーとなった「バカの壁」の中に、養老さんが恩師から教わった「教育の目的とは、結局、人をより深く知るためである」というくだりがとても印象に残っています。それまで、「なんのため」を意識せず、知らないことを知っている、わかっていると思い込み、知ろうとも学ぼうともしない“バカの壁”を痛感しました。

どんな仕事をするにせよ、舞台は社会、そして地域です。その社会や地域を成しているのは“人”です。その人に目を向けると、地域も社会も、いまどのような状況になっているのかが正確に見えてきます。

日本はこれから2040年を目指して、持続可能な福祉制度にしていくための様々な改革が進められます。世界もまた同じです。そのため、命の尊厳を最優先にし、護り支える福祉の仕事は、必ずや社会のど真ん中になります。

またこれから、ICT・介護ロボット、AI機器などによって就業環境は急速に変わっていくと思います。しかし、そうした変化があろうとも最後の最後、人としての尊厳を護り支えられるのは“人”です。

「人をより深く知るために学び続ける」その深奥には、人の尊厳を護り、健やかで幸福な時間を少しでも長く過ごしてほしいという福祉に携わる人々の切なる願いがあります。一緒により良い“福祉”を目指しませんか。

「私たちは日々、多職種と連携した個別のチームケアによる利用者の生

「終の棲家」としての 役割を担う

「今後も見守り機器や職員間連絡ツールのさらなる整備も検討しており、業務効率化とケアの質の向上を目指していきます」と野崎次長は話します。

護記録が、タブレットによるタッチ入力になったことで、入力時間の短縮が図られたうえ、複数職員による並行入力が可能となり、導入前と比較して1日あたり約10～30分の記録時間短縮に繋がっています。同時に法人内で情報共有ツールを導入し、法人全体で利用者の状況を把握できるように、事業所間での情報共有が円滑になりました。



介護福祉士の森原美子さん

活スタイルの維持を目標に取り組んでいます。利用者の思いに寄り添いながら、日々その人らしい暮らしに向けて、気負わず、緊張せず、相談しながら繰り返しチームケアを行っていくことにやりがいを感じています」と、介護福祉士の森原美子さんは話します。

また「自己満足ではなく、ユニット間や家族とのコミュニケーションを図りながら関わっていくことで、利用者の安心感や達成感が生まれ、喜びにつながっています」と、利用者が笑顔で暮らせるように関わっていくたいと話します。

そして、特養すこやかにはこんな逸話があります。犬のぬいぐるみ「ドン君」を自分の飼っていた犬と思い、一緒に過ごし、可愛がっていた利用者がいました。「ドン君がご飯を食べているかを心配していたことから、本人に見えるところで食べているかのようにして見せると、自身も安心して食事をしていました。ドン君と一緒にケアする（模擬食事や入浴（洗う）様子を見てもらうと、安心して過ごされていたように感じています。亡くなられた際、家族が棺の中にドン君を入れ、一緒に旅立たれていったと聞き、終の棲家としての役割が少し果たされたかと思っています」と、山本奈美江主任はやさしいまなざしで話します。

【概要】

- 所在地／鳥取県八頭郡八頭町宮谷174-1
- 開設日／2004(平成16)年11月19日
- 運営主体／社会福祉法人やす
- 職員数／職員数68名(正職員46名・臨時職員等22名)
内訳：管理者1名、看護職員6名、介護職員43名、生活相談員1名、介護支援専門員2名、機能訓練指導員(作業療法士)1名、管理栄養士2名、栄養士1名、他11名
- 協力医療機関：鳥取市立病院、植田歯科医院、岸本内科医院、こおげ駅前クリニック
- 定員／80名(ショートステイ6床含む)
- 利用(受付)相談窓口／当該施設及び法人内施設



Challenge チャレンジ福祉の仕事

社会福祉法人 やす

福祉分野の質的变化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応じて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

やりがいを感しながら意欲と向上心で前向きに

社会福祉法人やす「介護老人保健施設すこやか」

介護福祉士、准看護師

たけうち あづき
竹内 亜律希さん



竹内亜律希さんは、福祉の道を志した理由について、「小学校低学年の頃、従姉の結婚式の折に介護福祉士の従兄が祖母の介助をしているのを見て、私にもできるのじゃないかと思っていたことが最初のきっかけです」。そして「小学校5年生の時に『少子高齢化が進む社会で、介護福祉士は絶対に無くならない仕事だ』と思ったことも福祉の道に進む動機となりました」と話します。

入職後、小規模多機能型居宅介護施設に勤務しながら准看護師の資格を取得し、その後、介護老人保健施設への配属となり、現在は准看護師として服薬や痰の吸引などの医療的処置を行っています。

「福祉職場は、入所者や利用者の笑顔が見られるところに魅力を感じます。大変なこともあるけど、ありがたうと言われるとやりがいにつながり、頑張ろうと思えます」と竹内さんは微笑みます。

そして「介助する時に、利用者から『あんだでよかった』と言われた時は喜びとなり、自分で考えたレクリエーションを、楽しかった。まだしたい』と言われると、もっと楽しんでもらえるよう頑張ろうと思います」と話します。

利用者入所者と家族の気持ちに寄り添い、気持ちを尊重できる職員でありたいという思いを持つ竹内さんは、老健での在宅復帰に向けた生活を支えられるように、一番良い方法を関係者と一緒に模索しています。

准看護師として勤務する竹内さんは、日々進化する医療福祉業界についていけるように自己研鑽を重ねながら、5年間の勤務と通信教育での勉強で看護師の国家試験を受け、正看護師になることを目指しています。

さらには今の仕事に慣れて、看護師としての実力が備わり落ち着いたら、ケアマネジャーの資格も取得したいと話されており、意欲と向上心に溢れた熱意を感じさせます。



口腔ケア・痰の吸引を行う竹内さん

食べることで笑顔が生まれ健康になれば

社会福祉法人やす「特別養護老人ホームすこやか」

こばやし ゆうこ
栄養士 小林 優子さん



小林優子さんは、両親の看病やお世話をしてきた経験の中で、もっと何かできることがあったのではないかと、いう後悔の気持ちを抱いていました。そして、食事を通して健康を支え、生命を維持する栄養を守る存在になりたいとの思いから、短大に社会人入学をして、公的資格である栄養士の資格を取得し「特別養護老人ホームすこやか」に勤務しています。

現在は、利用者に合わせた食形態で食事を提供したり、栄養状態の管理指導などを行うほか、ユニットへの配膳・下膳、食器洗浄まで行いながら、利用者の健康を食と栄養の専門職としてサポートしています。

「食事は、利用者の楽しみのひとつでもあるので、微力ながら美味しい食事を提供したい」と話す小林さんは、勤務して間もない頃、下膳に行った際に利用者から『おいしかったよ』と声を掛けられたことを喜びに、「一人でも多くの人にそう感じてもらいたい。食べたいと思ってもらえる献立を作り、利用者の生活の質を向上していく手助けをしたい」と考えています。

そして「職場に就いた当初から職員同士の仲の良さを感じ、日々の業務の中で声を掛け合うことで理解も深まり、温かい職場の雰囲気を感じてきまし

た」と話す小林さんは、調理場をはじめ職場の人たちとの「コミュニケーション」がとても大切だと思ってきました。また、業務内容を一人では完璧にこなせない場面もあり、周りの職員の力を借りながら、少しでもできることを増やしていくことで、安心して任せてもらえるようになり、安全な食が提供できるよう努力したいと思っています。

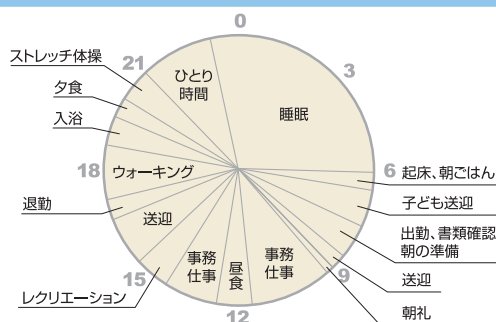
「生きるために食べよ」の格言は、食事は健康的でより良い生活を維持するための手段だという教えです。小林さんは「利用者が食べることで、微力ながら笑顔が増え、健康に役立てるよう頑張りたい」と笑顔を見せます。



福祉の専門職をめざして「介護福祉士」

地域が一体となって支えていくまちづくりを

介護福祉士は、日常生活を営むのに支障がある介護福祉士ニーズを有する人に対して、専門的知識と技術で心身の状況に応じたケアを行うとともに、要介護者および介護者（現場職員）に介護に関する指導を行う、介護の資格の中でも唯一の国家資格です。介護業界では人手不足が加速し、介護福祉士の需要はさらに高まっています。



社会福祉法人や
「介護老人施設きたやま」

おか が き か ず き

介護福祉士 岡垣 一樹さん(施設長・施設管理者)



思い立ったところでミーティングを開きます

小規模特別養護老人ホームの施設長として、また小規模多機能型居宅介護施設の管理者兼介護士として、おおよそは管理業務を行い、人員の状況によっては現場のフォローをしています。また、地域の方へ向けての体操やレクリエーションなどの講師も行っていきます。

現在の仕事の
内容を教えてください

学校で学んだこと、現実のギャップに困惑しましたが、何か人の役に立てることとはないかと進んだ道であり、直接利用者と関わる中でこんなに感謝される仕事なんだとうれしく思えました。

仕事に就いたときの
印象はどうでしたか

介護の人材不足が進み事業所の体制維持も厳しくなり、職員一人ひとりの負担が増す可能性があります。その中で、事業所だけで…地域だけで…と単独でできることは限られるので、地域が一体となって支えていく考えを持ち、その中に私たちの事業所も入っていく、地域を盛り上げることができたらいいと思います。そして、介護の仕事についてのイメージアップを目指し、選ばれる職業にしていきたいです。

将来の夢、
展望などをお聞かせください

利用者への対応は、その時の様子状況などを見ながらベストの対応が求められるので、正解がその日その時で変わります。また、同じ病名でも人が違えば症状も変わります。そんな中で笑顔を絶やさず、手を出し過ぎず見守り、待つことを大切にしながら、利用者本人と家族の生活を支えるという使命を抱き向き合います。大変なこともありますが、利用者の笑顔を見ることができると、頑張つてよかったとやりがいを感じます。また、利用者や家族の「御用聞き」にならず、要望・希望について、知識や経験を活かし、より良い提案・対応を行うことを常に意識しています。

仕事のやりがい、
魅力などを教えてください

北山集落と行っている
活動など地域貢献について

毎年秋に施設のある北山集落と一緒に合同防災訓練を行い、日頃から地域住民との関係を築き、非常時に協力し合えるように連携を図っています。また、八東地域福祉避難所設置・運営会議に「鳥取県DWA」のメンバーとして参加し、研修で学んだことを地域に還元できるように取り組んでいます。

※災害派遣福祉チーム「鳥取県DWA（ディーワット）」とは、災害時に鳥取県からの要請により、福祉の専門職（社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、保育士など）が被災地に派遣され、要配慮者および家族などに必要な支援を行う取り組みです。



施設長はフリー勤務で利用者の中にも入ります

就職支援コーディネーターがあなたの就職をお手伝いします！

鳥取県社会福祉協議会では、きめ細やかなマッチングを行うことで更なる福祉人材の確保を図るため、介護職と保育士の就職支援コーディネーターを配置しており、専門的知識を活かして相談から職場見学、採用申込から採用後まで、求職者に寄り添った支援をしています。今回は介護職の就職支援コーディネーターを紹介します。

就職支援コーディネーターって何をする人？

事業所情報を豊富に持つコーディネーターが、その人にあった事業所選びをアドバイス。施設見学の調整を行い一緒に見学に同行。定着に向けた支援を行っています。

誰でも相談できるの？ どうやって相談すればいいの？

福祉の職場に就職を希望する方は誰でも利用できます。就職を希望する方は福祉人材センターへ求職登録をします。ネット、来所、求職票の郵送のいずれかにより登録していただけます。

実際にどんなことをしているの？

転職を考えている方、初めて介護・保育の仕事に就こうと思っている方等、様々な思いで相談に来られます。どういう働き方を希望されているのか時間をかけてお聞きし、その方にふさわしい事業所を絞り込み施設見学を行います。求人票だけではわからなかった職場の雰囲気を感じてもらい、条件面等も確認し応募の参考にさせていただいています。求職者の方々からは「施設見学についてきてもらってありがたい」「いろんな情報が聞けて良かった」と喜ばれています。

長く働ける職場を
選びたい…
自分に適した職場が
分らない…



福祉のお仕事をお考えの方
就職支援コーディネーターに
お気軽にご相談ください！



福祉の職場は
初めてで不安…
子育てしながらだけど
大丈夫かしら？

山崎コーディネーター

東部地区 担当

令和6年7月にコーディネーターに就任し、2年が経過しました。福祉関係の仕事は奥が深く、悪戦苦闘しながら、日々の業務に当たっています。モットーは、「お客様の立場に立って、物事を考え、そして行動すること」です。

求職者の皆様、求人事業所の皆様、それぞれの立場に立った、きめ細かな相談に心がけています。まだまだ、不慣れですが、皆様のお役に立てるよう、努めて参ります。

〈趣味〉

歴史(古代史、近現代史)関係の本を読むこと。



職場を選ぶ場合、仕事の内容や職場の雰囲気が、求職者の個性と合うかどうか大切です。様々な事業所を見学することにより、そうした見極めができるようになります。気軽に事業所見学をお申し付けください。

安本コーディネーター

中部・西部地区 担当

この4月にコーディネーターに就任いたしました。これまで行政職員として従事した様々な分野の経験を活かし、介護のお仕事を考えていらっしゃる方に寄り添った支援を行ってまいります。

〈趣味〉

スポーツ全般の「観戦」が好きです。野球は「ダメ虎」時代からの阪神ファン。最近の好調さには、あたかも裏切られたかのような感覚を覚えています。(いい意味で)



お一人おひとりのご希望やご事情に合った選択肢が見つけれられるよう、お力になりたいと思います。ぜひお気軽に福祉人材センターにご相談ください。

来所、電話いずれかの方法でお気軽にご相談ください。(無料) ※土日・祝日・年末年始はお休みです。

鳥取県福祉人材センター(福祉人材無料職業紹介所)

鳥取市伏野1729-5 TEL(0857)59-6336 受付:月曜日～金曜日 8:30～17:00

とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

よなご若者サポートステーション

「とっとりボランティアバンク」はボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する“きっかけ”を提供するため、県内の生活支援や災害ボランティアを中心にした情報を収集・発信しています。

バンクには「ボランティア活動をしたい」個人と「ボランティア活動をしたい／ボランティアを募集したい」団体が登録しています。このコーナーでは登録団体の活動や想いを紹介します。

【ホームページ】<https://www.torivc.jp>



地域食堂立ち上げのきっかけ

近年、ひとり親世帯の増加、核家族化など家族の在り方が多様化する中で、子どもの貧困、高齢者の孤食が問題になっています。貧困や孤立問題は単に子どもや高齢者だけの問題ではなく、米子市においても、生活面の支援や居場所づくりなど地域全体として取り組むべき課題であると考えようになりました。このような方々の共助の場として、社会参加や人とのつながりを持ち、社会的孤立を減らす場所として地域食堂を立ち上げました。食を通じた「コミュニケーション」、「みんなで食べるとおいしい」というところを目指しています。

私たち労働者協同組合「ワークスコープ」センター事業団は鳥取県地域若者サポートステーション（よなご若者サポートステーション）を鳥取労働局と鳥取県から受託し運営していますが、その利用者の方々の中には、対人に不安があり、社会とのつながりが希薄になってしまつ方が多くおられます。そのような方が、地域社会とつながるきっかけになればよいという思いもありました。

活動の概要

2025年4月から6月は「居い場所田園」の主な運営者である社会福祉法



ボランティアの方による調理の様子

人「地域（まち）でくらす会」の賛同を得て地域食堂を開催し、7月からは「まちの居場所田園」という名称に変え、住民活動支援ネットの一員として、ワークスコープも居場所づくりに携わっています（複数団体が共同体として連携して取り組む事業）。「まちの居場所田園」では、「支援する側、支援される側」で分けるのではなく、対等な「仲間」の居場所を目指しており、地域食堂でもそういうあり方を実践できています。また、他の団体と刺激し合い、相互に交流があり、米子市の地域福祉の一員としての実感を持つことができています。月に一度、金曜日の夕方からボランティアの方が集まり、調理が始まります。今では20名ほどの方が集まるようになりました。

メニューは季節感があるものから趣向を凝らしたものもあり、マッサマンカレーやスロッピージョー（アメリカの郷土料理、ご存じですか？）などにもトライしたりします。調理内容は…時にはうまくいかないこともあります。みなで工夫して、何とかおいしくいただいています！

活動を通してよかったこと等

調理の経験を通して、サポステ利用者の方が地域食堂での調理ボランティアをきっかけに、飲食店で調理の仕事に就かれた例もあります。地域食堂でのボランティアは、肉や野菜を切ったり、お米を研いだり、料理が得意なボランティアの方のレシピをもとに分担して調理を行う活動です。最初は集団活動が苦手だと言っていた青年が次第に集団に慣れ、その後、就労に繋がることが目につくようになります。参加者同士がともに声をかけて地域食

堂に通つてくださるようになったことも、よかったことです。

これから大切にしていきたいこと

2026年6月で、立ち上げから2年を迎えますが、和やかでアットホームな雰囲気できて、ぬくもりのある地域食堂になりました。調理はときどきハプニングがあったりしますが、それが楽しい話になったり、温かく受け入れてくださる土壌ができたように思います。そんな温かい、ぬくもりのある地域食堂を大切にしていきたいと思っています。また、食後の余暇も楽しく談笑したり、オリジナルのボードゲームを作ってみるなど、楽しむことなど、自由にのびのびと展開しています。また、サポステ利用者の方の地域社会への入り口としての役割も果たしていければと思っています。

読者メッセージ

今後もぬくもりのある和やかな地域食堂をみんなで作っていききたいと思っています。地域食堂は、月一回金曜日の18時から開催していますが、開催日は固定ではありませんのでお問合せください。お近くにお越しの際に、タイミングが合うようでしたら是非ともお立ち寄りください。

「問合せ先」

よなご若者

サポート

ステーション



担当の
諏訪雅幸さん

電話 0909-91-1501
メール yonago-sapo@roukyou.gr.jp

「鳥取学生赤十字奉仕団」(鳥取大学ボランティアサークル)

ボランティア活動の中には、
感じて学び、習得できることが多くある

在学生に引継がれて65年の歴史がある「鳥取学生赤十字奉仕団」は、現在、鳥取大学76名、鳥取県立鳥取看護専門学校8名の団員が、日本赤十字社の「人道」の精神に基づき、地域の子どもたちや住民の人たちとの交流を大切にしながら活動されています。今年度は、①学年を越えた「報・連・相」や交流を行って協力し合う②一人ひとりが主役として責任をもって団結する③子どもに向き合い学び考え、ともに楽しむ、という3つのテーマを掲げ、組織運営と奉仕活動に取り組んでいます。



好天に恵まれたグラウンドではたくさんの屋台で大賑わい

学生と関係者が多彩な
イベントを企画・運営

主な活動は、毎週1回公民館で地域の小中学生を対象とした学習習慣の定着サポートをする「学習支援」と、ボランティア活動の質を高めるために開催する毎月1回の「定例集会」が通年の活動です。

心に余白をもち、関わる
人たちを頼りにすること

今回訪れたのは、毎年5月に児童養護施設鳥取こども学園で開催される「鳥取こども学園こども祭り」です。グラウンドにはたくさんの飲食の屋台、体育館にはゲームやバザーのコーナーなどが設けられ、



受付をしていた佐藤莉奈委員長

多くの地域の人たちが訪れる一大イベントで、入所児童や職員をはじめ、地域の方々とともに団員29名が屋台の準備から運営をして交流を図りました。その中で活動をしてきた鳥取大学生の4名に、活動への想いを聞きました。

工学部3年生で代表の佐藤莉奈委員長は、「最初は、楽しそう」という素直な興味から入りましたが、今では活動を通じて得られる人とのつながりや、地域への参画に大きなやりがいを感じています」と話します。

そして活動が続ける中で「支える側の責任と見えない配慮の深さに気づかされました。いざ自分が運営に携わってみると、幼いころ何気なく楽しんでいた地域のイベントの裏側では、これほど多くの人が細かな配慮を積み重ねていたのだと知り、深く感動しましたと笑顔を見せます。

委員長として活動を継続して行くコツとして「気負うことなく、完璧を目指し過ぎず、同じ志や悩みを持つ仲間」に「いざとなったら助けをもらおう」という気持ちで活動に参加してみる。その「心に余白をもつことが結果として継続につながると思います」と話します。

農学部獣医学科2年生で副委員長松屋陽依莉さんは「やったことがないことに挑戦してみよう」と始めて、今では、自分の行動が誰かの笑顔につながる喜びを

鳥取県ボラセン
キャラクター
「はーちゃん」



自分自身もイベントの 準備や運営を楽しむこと

大学生になったら何かボランティア活動に挑戦したいと思っていた農学部獣医学科3年生の大谷

感じ、大切な活動になっていると話します。



チョコバナナを販売する副委員長の
松屋陽依莉さん

その中で「周囲と協力することの大切さと、チームで支え合うこととの重要性を学び、一人で抱え込まないで、周囲に頼りながら進めることが大切だと思います」と話す松屋さんは、子どもたちや参加者の笑顔と「ありがとう」という言葉が大きなモチベーションになり、続けていけると感じています。

そして活動を通して、福祉分野への関心が高まったと言う松屋さんは「関わりの中で相手の立場に立つて考えることの重要性に気づき、自分の行動が誰かの役に立つことにやりがいを実感しました。相手に寄り添って分かりやすく伝える力は、どんな分野に進んでも活かせると思います」と話します。

笑加さんは、「ひとつのイベントにたくさんの人と時間がかけられていることを実感しながら、子どもたちが楽しんでいる姿を見て、とてもうれしかったです」と、笑顔を見せ「自分自身もそのイベントを楽しむことが継続するコツだと思います。自分たちも楽しんで参加することで、それを見ている子どもたちも安心して楽しめるのだと、活動の中で子どもたちへの向き合い方や接し方を学びました」と話します。



かき氷コーナーを担当する大谷笑加さん

医学部2年生の吉田菜乃果さんは、奉仕団には、他のサークルでは経験できない活動ができる魅力があると感じて参加したと言います。

「イベントひとつ開催するにも、団員だけでなく、赤十字の方と一緒にイベントを運営する方、そして参加してくれる子どもたちなど、多くの方が関わります。私もその一員としてイベントを作りあげることにとってもやりがいを感じられ、様々な人たちと関わる中で、相手を尊重する気持ちや想像力、コミュニケーション力がついたと思います」と吉田さんは話します。

子どもたちを支える 『見えない力』に

「鳥取学生赤十字奉仕団の皆さま



体育館ではパズルやゲームコーナーで子どもも大人も楽しみました



パズルで接客をする吉田菜乃果さん

そして「大変なことかもしれませんが、身大で接し、団員一人ひとりが思い切り楽しみながら活動すること、やりがいも強く感じられ、活動が継続できるのだと思います」と微笑みます。

んには、昭和36年から60年以上にわたりボランティアと
鳥取子ども学園
山本隆史常務理事
して関わっていただき、学生の皆さんとの交流は、鳥取子ども学園の歴史の中でも楽しみや安心感、人とのつながりを感じる貴重な歩みだと言えます」と話すのは、鳥取子ども学園の山本隆史常務理事です。「皆さんが定期的に学園に来て、子どもたちと過ごしてもらえると、自体に大きな意味があると思います。多い時には40人の子どもたちが勉強を教えてもらいました。現在のように支援制度が十分ではない時代に、その学習会は子どもたちの進学や学ぶ意欲を支える大変大きな力になったと思います」また「入所児童と学生の交流には、子どもたちにとっては、自分たちのことを気かけ、話を聴いてくれる、応援してくれる人がいると感じられる大切な機会になっていると思います」と、その意義を重く感じています。

●問合せ先 担当窓口

日本赤十字社鳥取県支部 事業推進課
鳥取市東町一丁目27-1
TEL 0857-1221446
FAX 0857-1201306
HP <https://www.jrc.or.jp/>
chapter/tottori/
Eメール jigyoto@totori.jrc.or.jp

第2回因伯ねんりんピック



新緑に集う 笑顔と健康

5月1日(金)から5月22日(金)の間、あやめ池スポーツセンター等、県中部の各会場を中心に第2回因伯ねんりんピックを開催しました。

因伯ねんりんピックは、県内在住の60歳以上の方を対象とした県大会です。スポーツや文化活動を通して、仲間づくりや健康、生きがいづくりを促進するために毎年開催しています。種目は、卓球、テニス、ソフトテニス、ソフトボール、ゲートボール、パタンク、ゴルフ、弓道、グラウンドゴルフ、ボウリング、囲碁、将棋、健康マージャンと多岐にわたっています。今年度はラダーゲッターが新たに加わり、全14種目となり、約1,100名が参加され、日頃の成果を発揮されたり、交流と親睦を深めたり、皆さん楽しんでいらっしゃいました。

今回、初開催となったラダーゲッターは、ヒモでつながる2個のボールの内、一方を手に持ち、ラダー(はしご)に投げる、近年注目を集めているニースポーツです。会場には、普段運動をされる

方、されない方、様々な選手がいらっしゃいましたが、年齢や体力に関係なく誰でも楽しめるのがニースポーツの魅力です。皆さんが楽しそうな表情で戦い、応援している様子が印象的でした。

なお、一部種目は11月に開催する、60歳以上の方々を中心としたスポーツや文化の祭典「ねんりんピックの国さいたま2026」の選手選考会も兼ねています。鳥取県代表として、心に残る大会となることを期待しています。



初開催のラダーゲッター大会



ラダーゲッター優勝チームの皆さん



ゲートボール大会

来年の因伯ねんりんピックは、東部会場を中心に開催予定です。多くの方の参加をお待ちしています！

巡回パトロールと花笠踊りで、 健康と体力を維持する日々

いきいき シニア

ことぶきレポーターの取材より

県内の素敵な高齢者を
同世代のことぶきレポーターが取材をします。
「シニア」の「シニア」によるシリーズ。
地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしてい
る人など高齢者の魅力を余すことなくご紹介します。

今回は、河崎地域安全パト
ロール隊の隊長、足芝洋司さん
に、パトロール隊の活動、そして、
河崎花笠踊りについてのお話を
伺いました。



足芝洋司さん

さらに足芝さんは、河崎地域
の伝承芸能として発足した「河

地域の誇り 河崎花笠踊り



パトロール隊活動の様子

目的に作られました。特に小・中
学生の登下校時には、危険な場
所や道路等で交通誘導して、生
徒の見守りを実施しています。
活動に込めた思いを尋ねてみ
ました。すると、「毎日パトロー
ルをしながら、生徒が今日も安
全に登下校ができることを願い
活動をしています」と言われ、足
芝さんの優しさ、思いやりが伝
わってきました。

河崎花笠踊りは、盆踊りの「茶
町」「神戸」「五本松」の後に、河崎
だけの独創的なものを取り入れ
て出来た踊りです。両手に花笠
を持つこの踊りは、昭和9年頃か
ら踊られていましたが、終戦後
に廃れてしまい、「幻の踊り」とな
りました。しかし、伝統ある盆踊
りが懐かしい、という声が高ま
り、世代間交流事業を機に、昭和
40年代から本格的に復活をして



河崎花笠踊り

いくことになりました。

ただ、最初は花笠踊りを覚え
ている人を探すことも一苦労。幸
いに10名ほどの協力者を得て、
早速花笠作りに着手できたとい
うことですが、なにぶんにも半
世紀近いブランク…。指導にあ
たられた人も、勘を取り戻すの
に苦労があったそうです。歌詞も
現在の実情に不合理があり、「彦
名干拓」「水鳥公園」など、歌詞の
追加をしているそうです。

その他にも、学校運営協議会
委員や、健康づくりのための行
事に参加をするなど、精力的に
活動されています。特に学校運
営協議会委員は自分自身の生き
甲斐として、活動しているとい
うそうです。



私も、足芝さ
んのよう
に活動す
ることを
目標にし
て生活し
たいと思
います。

取材を終えて一言
岡田 信行さん(米子市)
地域安全活動芸能活動等を通じて、
地域との触れ合いを大切にして毎日を
過ごす事を知り感動しました。

福祉のしごとをもっと身近に。出前講座を受付中。

介護の出前講座

介護の仕事を身近に感じ、興味・関心を持ってもらうことを目的に、次世代を担う小学生・中学生・高校生またその保護者等に対し、実際に働いている介護職員を講師やゲストティーチャーとして派遣し、高齢者や介護の知識、介護の仕事の魅力などを伝える出前講座事業を実施しています。

- 対象 象／鳥取県内の中学校・高等学校の生徒、教員、保護者(PTA等)、県民
鳥取市または米子市の小学校の児童、教員、保護者(PTA等)(試験的实施)

- 実施期間／令和8年6月1日～令和9年3月31日

参加者の声



「高齢者の方への配慮や心理的变化などに対する接し方などを理解した。」「大変なことが多い仕事ですが、やりがいや社会的役割を感じられる仕事だと思った。」

【お問い合わせ先】

福祉人材センター TEL:0857-59-6336

ホームページ https://www.tottori-wel.or.jp/jinzai/shigoto_top/

鳥取県福祉人材センターの公式Instagramでは、各種事業のご紹介や就職活動に役立つイベント情報、福祉のお仕事の魅力などを発信しています！ぜひフォローをお願いします。



Instagram

保育の出前説明会

若手保育士(保育教諭)が先輩として中学校・高校を訪問し、仕事のやりがいや葛藤、鳥取県で働く魅力等を語ることで、数年先をイメージしながら職業選択の参考としていただくことを目的とし、保育の魅力を伝えます。

- 対象 象／鳥取県内中学校・義務教育学校後期課程・高等学校の生徒、保護者
- 実施期間／令和8年7月1日(水)～令和9年2月26日(金)の間で随時実施

参加者の声



「私はまだ将来について決まっていなかったけど、いろんな話を聞いて、保育士もいい仕事だと改めて知れました。」「ごま作りもおもしろかったし、保育士さんの一日など知らなかったことをたくさん知ることができました。」

【お問い合わせ先】

鳥取県保育士・保育所支援センター TEL:0857-59-6342

ホームページ

<https://hoikucenter@tottori-wel.or.jp>



ホームページ



Facebook

そんなときは…

とっとりボランティアバンク

ボランティアの力を借りたい

誰かのために力になりたい



ボランティア
したい人(団体)



ボランティアの
力を借りたい団体

登録すると何ができるの？

ボランティア募集や関連講座・研修などの情報を受け取ることができます。

HPやメルマガを通じて、ボランティア募集や関連講座・研修などの情報を発信できます。

どんな活動があるの？

災害支援

豪雨や台風で被災した地域では土砂の除去や家具の運び出し等を行いました。

生活支援

話を聞いたり外出を支援したり、大雪の時は雪かきなど様々なボランティアを行っています。

※過去の活動の一例です

ご登録
ください！

登録方法

登録票に必要事項を記入のうえ、FAX、Eメール、郵送等で送付してください。

HP <https://www.torivc.jp/>

※HPから直接申込可能！



ご利用・ご登録は
全て無料です

【お問い合わせ・ご相談は】

福祉振興部(鳥取県ボランティア・市民活動センター)まで TEL:0857-59-6344 FAX:0857-59-6340

ボランティアに関するお悩み・ボランティアの募集や関連講座の情報等お気軽にご相談ください！

令和8年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償 ボランティア活動保険


保険金額・年間保険料（1名あたり） 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン
保険金の種類			
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円
		外来の手術	32,500円
	通院保険金日額		4,000円
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷	×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円

 商品パンフレットは
[こちらから](#)

 (ふくしの保険
 ホームページ)

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

(引受幹事) 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03(3581)4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

HOTeyeギャラリー

「介護生産性向上」の取組紹介

介護労働安定センター鳥取支部では、鳥取県より委託を受け「鳥取県介護生産性向上総合相談センター」を開設しています。

介護事業所に対し、業務効率化による職員の負担軽減と介護の質の向上を図るための支援を行っています。生産性向上の取組等に関する相談窓口の設置、介護ロボット・ICTの展示や試用貸出、生産性向上の取組に関する研修会の実施や、専門家による業務改善の取組に対する伴走支援の実施など、介護サービス事業者等に対してワンストップ型の支援を行っています。

お気軽にお問合せください。

〈お問合せ先〉
鳥取県介護生産性向上総合相談センター
〒680-0846 鳥取市扇町116
田中ビル2号館2階
公益財団法人介護労働安定センター 鳥取支部内
電話 0857-21-6571



一般社団法人日本福祉用具供給協会 中国支部鳥取ブロック

本会では、福祉用具・生活支援用具及び関連する事業の高度化を図り、国民の健康・福祉と生活の質の向上に貢献することを目的として、様々な事業を行っています。

福祉用具に関するお問い合わせは下記連絡先までお願いします。

【お問合せ先】事務局:0859-24-9588
(株)ハピネライフー光内

【お知らせ】

鳥取ブロックでは 介護福祉機器展を開催します

- 日時:令和8年11月12日(木)
10:00~16:00
- 会場:鳥取県立米子産業体育館(大体育館)
- 入場無料

福祉用具・介護用品を実際に見て触れてご体験ください!皆様のご来場を心よりお待ちしております。

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)
URL <https://www.tottori-wel.or.jp> e-mail soumu@tottori-wel.or.jp



鳥取県
社会福祉協議会
ホームページ

福祉人材の
確保・育成・定着
を支援します

鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341
e-mail jinzai@tottori-wel.or.jp



福祉人材センター
Instagram
公式アカウント

ボランティア活動の
幅を広げる
活動を応援します

鳥取県ボランティア・市民活動センター

TEL.0857-59-6344 FAX.0857-59-6341
e-mail vc@tottori-wel.or.jp

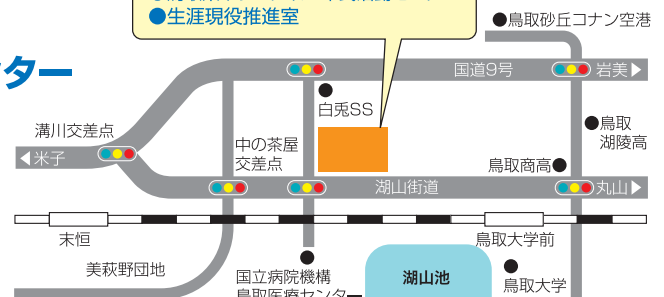
元気な高齢者の
生きがい・社会貢献
を支援します

生涯現役推進室

TEL.0857-59-6338 FAX.0857-59-6340
e-mail kototori@tottori-wel.or.jp

県立福祉人材研修センター

- 鳥取県福祉人材センター
- 鳥取県ボランティア・市民活動センター
- 生涯現役推進室



本誌について、また、福祉に関することについて
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。



「ホットアイ122号」
アンケート回答フォーム

「HOTeye ホットアイ」第122号／令和8年7月発行

発行／社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内) TEL.0857-59-6331 FAX.0857-59-6340

印刷／中央印刷株式会社